

「あなたとどこでもアート／着がわりプロジェクト」

この事業は、埼玉県内の5つの公立ミュージアム*の連携を基盤に、文化庁の助成を得て、さまざまなアートの分野で活動している方々が集うSMF (Saitama Muse Forum)とともに、地域と共働したさまざまなアートプログラムやアウトリーチ活動を展開するものです。衣食住など暮らしに身近な視点からアートの創造性を捉え直し、芸術活動の活性化・基盤整備をめざしています。

昨年の「小さな家プロジェクト」に続き、今年度は「着がわりプロジェクト」と題し、「衣と体のせめぎあい」コスチューム制作ワークショップ(ひびのこづえ監修)や「時間のきもの」プロジェクト、廃工場

を舞台とした「〈き〉がわりを〈き〉がえる」などを中心に、「衣」や「着る」をテーマとしたさまざまなプログラムを連携する5つのミュージアムをはじめ県内各地で開催します。

なお平成26年度事業により今春ネット上に誕生した「SMFアート長屋」に井戸端、掲示板、物置を開設し、長屋の機能の拡充・展開を図るとともに、プロジェクトアートの自由な提案などを募る展覧会「アートの宝船」(仮称)をネット上で開催します。

*入間市博物館アトリ、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーアトリエ、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館

衣と体のせめぎあい、始まる!

Saitama Muse Forum の活動が始まったときから、意欲的な踊り手たちが、さまざまなアート作品、アート空間とのコラボを実現してくれています。今年度のテーマが「衣」であることから、コスチュームとパフォーマンスを相乗的に創りあげていく場を設けました。

まさに、それを具現化しておられるコスチュームアーティスト、ひびのこづえさんに、コスチュームを作る人たちの背中を押していただくことをお願いしたところ、それに先立ち、思いもかけなかった、ひびのさんの「参考作品展示」|作品着用パフォーマンス|をご提案いただきました。

7月14日~24日、埼玉県立近代美術館講堂と吹抜けにひびのさんの作品42点が出現、親子連れや小中学生たちにも楽しんでもらうことができました。

この会期中に行われた作品着用パフォーマンスでは、蒼浩人さんと藤井彩加さんが、「ひびのさんの衣装と向き合い」、「音楽噴水の池の中で踊る」という二つの課題をみごとにこなしてくれました。今回、初めて出会った二人が、衣装を媒介にみるみる変化していくさまは、まさに創造の原点でした。

「人を包む服を作り続ける中で、ダンサーとのコラボレーションは特に魅力的です。変幻自

在に変化するダンサーの体と布との関係の中で、服は人の体の動きを増幅させ、時には抵抗を与えることで新しい動きの発見に出会えます。でもそこにはコミュニケーションと愛情が大切で、それがあればどんな奇抜な服もダンサーの体が入る事で魂が宿り、美しく動くのだと信じて作っています。」とおっしゃるひびのこづえさんは、パフォーマーに対しては、「服の見た目の面白さや美しさは、動きに制約を加えたり、体で表現出来る事を先に語ってしまう。でも、私はあえて、それなら衣装を越えて欲しいと願うのです。どんな目を引く衣装を着ていても、観客の目が服の下に隠れたダンサーの動きしか見えない様に踊って欲しい」と。

さて、いよいよ、公募で集まったコスチュームの作り手と、パフォーマーとの新たな「せめぎあい」が始まります。さあ、衣と体、食うか食われるか。これから11月まで、その様子をご覧ください。(S.Y)



音楽噴水でのパフォーマンス「水辺のふたり」



ひびのこづえコスチューム作品展示「リズムプリズム」



吹き抜けでの作品展示

コスチューム途中経過報告公開講座

9月5日(土) 埼玉県立近代美術館 観覧自由

各地でお披露目パフォーマンス

9月27日(日) 入間市博物館アトリ

10月12日(月・祝) 川口市内廃工場

10月25日(日) 北浦和西口銀座商店街

11月8日(日) 別所沼公園(さいたま市浦和区)

ファイナルイベント

11月21日(土) 北浦和公園/埼玉県立近代美術館講堂

完成したコスチューム全作品が登場

PROJECT

AWA

KIGAWA

PROJECT

SMFアート長屋に物置!?

SMFでは、「SMFアート長屋」を2015年春にオープンしました。この「SMFアート長屋」は、SMFがこれまで取り組んできた「アートプラットフォーム」をウェブ上に展開し、アートをつくりだす側だけが「アーティストティック」なのではなく、アートの鑑賞が好きな人、アートワークショップに参加して楽しいと感じた人、日常的になにか工夫をこらして生活している人など、アートにかかわるすべての人びとが「アーティストティック」なのではないだろうかという視点を共有しながら活動の輪を広げていく取り組みです。

2015年度はこの「アート長屋」に「アート物置」を設置し、入居者どうしが様々なアイデアを出し合いながらコミュニケーションをとれる場を追加していきます。その場を通して実践していくことは、入居している多様な人々が、何についてどのように協働できるのか、という可能性を互いに考えながら、そこで生まれたアイデアを現実の空間で実現していくことです。こうした入居者どうしの交流やアイデアの交換をどのようにして立ち上げていくことができるのか、そのための一つの方法を「アート物置」の設置によって実現していきます。

そもそも「SMFアート長屋」は、多様な人々が集う場です。多様な人々とは、なかなか一言で説明するのが難しい人々の集まりともいえます。そういった人々が「SMFアート長屋」を通してアイデアを出し合って協働したときに何ができるのか、それは現時点では誰もが想像もつかないものだと思います。おそらく、こうしたプロやアマチュアの枠を越えて、互いに触発されながら進めていくようなアートイベントに関しては、誰もがアマチュアであり、そうしたアマチュアリズムのなかから手探りで何かを立ち上げていくことで、大きく豊かな創造性を提案できるのではないかと考えています。

どんなアイデアが生まれるかは誰にも分かりません。SMFでは、2015年10月ごろからウェブ上の展覧会の呼びかけを行い、2016年1月に埼玉県立近代美術館一般展示室(地下1階)での「SMFアートのまつり」を実施し、皆さんから寄せられたアイデアをウェブ空間から実空間に移し、企画として実現することを試みます。入居がまだお済みでない方は、この機会に是非入居手続きをしてください!

(T.S)

アート長屋ってどんなところ?

- ・さまざまな生き方をしてきた(している)人が集う。
- ・そして、触発しあう未知なモノコトを創り出す。
- ・見えなかったことが見えるようになる。
- ・いままでとはモノコトが違って見えるようになる。
- ・考えられなかったことを考えられるようになる。
- ・アートのプロフェッショナルとアマチュアが、膝を並べて集う。
- ・アートを「衣・食・住」を通じた掘りある視点で捉える。
- ・自身のプロモーションの場ではなく、参加するアーティストのアーティストティックな新たな表現空間にもなり得る。
- ・その空間での様々な分野の人々との繋がりが、結びつきを通じた新たな展開。



どんな人が住むの?

アートに興味がある人ならば誰でも(アートプランナー、アートボランティア、キュレーター、アートワークショップ参加経験者、プロのアーティスト、日曜アーティスト、かつてのアーティスト、未来のアーティスト、自称アーティスト、なんちゃってアーティスト、アーティストティックな生活者、日常生活でアーティストティックなひと工夫をしている人、日常生活で何かを発見することが好きな人。

なにができるの?

- ・皆さんの作品や活動、日常生活で一工夫したモノ(コト)の画像に対する説明文を掲載できます。

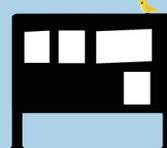
- ・皆さんご自身の紹介もできます。
- ・長屋に住居している他の方々との協働やコト興しにご活用いただけます。
- ・画像だけではなく音声や映像にも今後順次対応を予定しています。

具体的な掲載内容

- ・氏名
- ・プロフィール・自己紹介(300文字以内)
- ・作品や活動、日常生活での工夫などを表した画像(最大10点まで)
- ・各画像の説明文(300文字以内)
- ・今後画像だけではなく音声や動画にも対応予定です。

参加方法

- ・メールアドレスとパスワードを設定
- ・文章・画像をアップロード
- ・詳しくは、<http://artnagaya.jp> まで。



SMFアート長屋第1棟に入居しお申し込みをいただいた方、先着50名にSMFオリジナルキーホルダー(銀製、ハンドメイド)をプレゼントします。

連携美術館情報

入間市博物館アリット

アイヌ工芸品展

「木と生きる—アイヌのくらしと木の造形」

8/29~10/18

アイヌの木にまつわる伝承をプロローグとして、今に伝えられている工芸品、さらに現代作家による多彩な木彫作品を紹介します。木とともに生きてきたアイヌのくらしと精神世界をふりかえりながら、木を素材にした豊かな造形世界を展覧します。

うらわ美術館

作家の手の内—スケッチ、デッサン、エスキース

9/5~9/27

収蔵作品につながるのある資料類に焦点を当てます。完成図の輪郭線を忠実に描き出した下絵やイ

メージを練り上げるために重ねたスケッチ等、作家の造形感覚を堪能しながら制作過程を追体験し、作品の新たな魅力を探ります。

川口市立アートギャラリー・アトリア

アーティスト・ラボ2 シミュレーションゲーム報告

あなたがもし、○○○○だとしたら。2組のアーティストと一般の参加者があり得ない「設定」をつくり、実際に行動してみた記録をベースにした映像作品・つくったものを展示しました。

鑑賞する大人も子ども思わず笑ったり驚いたり。まるでゲームのように空想と現実が入り混じる自由な世界を楽しんでいました。

川崎市立美術館

美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶモダ

ン・アートの楽しみ方

7/18~9/23

絵本作家、グラフィックデザイナーのディック・ブルーナの絵本に登場する「ミッフィー」とともに、鑑賞から制作までを楽しむ体験型美術館。「みてみよう」「考えてみよう」「作ってみよう」の3つのテーマにより、館所蔵の美術作品やブルーナの世界をご紹介します。

埼玉県立近代美術館

すごいぞ、これは!

9/19~11/3

いろんな人がいて、いろんなものをつくっている。そのことだけでもわくわくするのに、心が揺さぶられるようなアートに出会うと、少し元気になったりする。障害者アートを見て回った人たちが「すごい」と推薦したアーティストを紹介します。(A.O)